

関西学院大学 研究成果報告

2017年 5月 31日

関西学院 院長殿

所属：社会学部
職名：教授
氏名：金明秀

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： 大韓民国 ） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	日韓の排外主義と民族的マイノリティをめぐる社会学的研究
研究実施場所	ソウル大学
研究期間	2016年 4月 1日 ～ 2017年 3月 31日（ 12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

研究課題は、①韓国においてマイノリティへの関心がどのように展開しているかを調査すること、②アジア各国からの移民とそれに対する排外主義的反応の状況を調査し日本における排外主義の状況と比較すること、であった。

この2つの課題に対応するため、以下のような取り組みを行った。

(1) 韓国の国家人権委員会が淑明女子大学産学協力研究団の学者らに委託した「ヘイトスピーチ実態調査」（2016年8月13日～9月29日に実施）にアドバイザーとして参加した。これは、韓国政府が歴史上初めて実施した人種差別に関する包括的な調査であり、各種マイノリティ（移民、女性、セクシュアルマイノリティ、障害者）を対象とした聞き取り調査と、マイノリティ及びマジョリティを対象とした量的調査から成るものである。

金明秀は主として聞き取り調査担当者（チョウ・スンミ氏）に対してインタビューガイドの作成やデータの解釈にアドバイスをを行いつつ、調査にも同行した。また、量的調査の設計についても提言を行い、マイノリティ担当のデータに関して多変量解析の結果を伝えるなどの助言をした。同調査の報告書は国家人権委員会から2016年12月に刊行されている。

同調査研究に参加したことにより、以下のことが明らかになった。①韓国におけるヘイトスピーチ問題は、日本よりも情報通信インフラの整備が先行したこともあって、より早

期に始まったこと、②国家エリートが主導するかたちで人権関連政策が導入されてきた経緯があるため、法制度上はヨーロッパ諸国と同等の水準に到達しているものの、急速な法制度に社会意識が追隨しておらず、差別実態は日本よりも劣悪な面があること、③マイノリティは物理的な暴力やレイシャルハラスメントの被害を訴えており、(韓国女性を除けば) ネット上や路上でのヘイトスピーチを必ずしも問題視していないこと、④レイシャルハラスメントはしばしばセクシュアルハラスメントを伴っており、複合差別として深刻化しがちなこと、⑤警察を含む行政組織によるレイシャルハラスメントが深刻であり、法制度の運用に大きな課題があること、などである。

(2) 韓国の研究者や市民運動家らと情報を共有するため、各種の研究会に参加した。また、招請に応じて、韓国継承日本語教育研究会にて「アイデンティティって何？在日コリアンの場合を糸口に」(2017年2月25日)、九里歴史倶楽部にて「在日コリアンの歴史とアイデンティティ：民族的マイノリティのプロトタイプとして」(2017年3月27日)と題した講演を行った。後者の講演をもとに韓国メディアのインタビューを受け、長文の記事が掲載された。

(3) 韓国内の反差別運動や市民運動に参加し、参与観察を行った。とりわけソウル・クィアフェスティバルにおいては、韓国内でもっとも被害が深刻だと言われるセクシュアルマイノリティに対するヘイトスピーチの状況と、それに対するカウンター運動の実践について実情を把握することができた。

(4) 日本国内で実施してきた研究及び社会貢献活動を継続して実施した。
「外国人入籍法連絡会結成10年シンポジウム」にて基調講演(2016年4月9日)
「人種差別実態調査研究会」研究会に研究班長として参加(4月10日)
関西社会学会大会への出席(5月28～29日)

「部落解放・人権夏期講座」にて講演(8月23日)
「人種差別実態調査研究会」研究会に研究班長として参加(11月26日)
「東アジア日本研究者協議会」に参加(11月30日～12月2日)
「大阪多様性教育ネットワーク オープン学習会」にて講演(2017年1月7日)

以上の活動で日本に一時帰国した際に、国外の研究者らと研究会を催したり、在日コリアンの市民運動から聞き取り調査を行った。

(5) 以前から継続していた論文と著書について執筆を行った。
人種差別実態調査研究会編『日本国内の人種差別実態に関する調査報告書』刊行(4月19日)、編著

『中国雲南省少数民族から見える多元的世界—国家のはざまを生きる民』(明石書店、2017年4月) 分担執筆

『社会学入門』(ミネルヴァ書房、2017年4月)、編著、分担執筆

『在日コリアンの離散と生の諸相—表象とアイデンティティの間隙を縫って』(明石書店、2017年5月) 分担執筆

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構(NUC)

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。